

地域委員会等に関する状況調査結果概要

アンケート実施概要
【配布日】平成25年1月24日(木)
【回収日】平成25年1月30日(水)～2月18日(月)
【送付数】140
【回答数】108
【回答率】77.0%
※主な意見・項目を抜き出して作成。調査結果の詳細は3月下旬に各地域委員に郵送予定。
※調査結果は、第5期の地域委員に情報提供するとともに、各地域委員会の運営に活用する。
※[⇒]は改善案

◇1期目の感想について

○良いと感じる点

- ・地域の現状や課題、地域の宝を知ることができて活動の参考になった。
- ・交流会などで他地域の委員と交流でき、刺激を受けることができた。

○改善が必要と思う点

- ・地域委員会の役割をつかみきれない。理想と現実の違いに戸惑った。
- ・過去からの継続的な議論について、経過がわからない。

⇒5期スタートにあたっては地域委員会の役割を示すとともに、これまでの経過説明もしっかり行う。

◇地域委員会に関すること

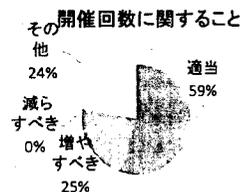
○委員の構成について

適当であるとの回答が最も多いものの、女性・若い人の両方、もしくはどちらか(特に若い人)を増やすべきという意見が目立つ。

⇒地域の若い方から意見を聞く機会を設けるなど、対応を検討する。

○開催回数について

適当という意見が60%。増やすべきとの意見が20%。



○運営について

概ね支障なしと感じている(約7割)。一部には資料の配布を早くしてほしいという意見が目立つ地域がある。

⇒資料の事前配布を徹底し、送付時期についても可能な限り早めるようにする。

○議論の時間・内容について

十分な議論ができているという意見は約5割。議案の説明が長い、議論はできても集約できていないなど、進め方に対する意見が目立つ。

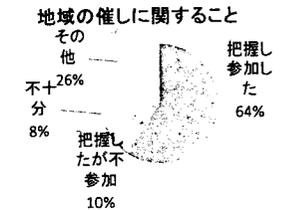
⇒事務局の説明は極力簡潔に行うことを徹底する。

⇒第5期にあたっては議論の進め方について、委員長及び副委員長と事務局でよく協議する。

○地域の催しについて

催しの開催については概ね理解され、都合がつく限りは積極的に参加を心掛けたという委員が6割。

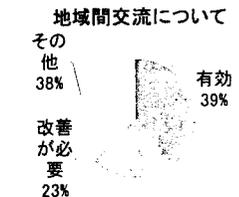
⇒今後とも積極的な参加をお願いしたい。



○地域間交流について

交流が活かされているという声は4割程度。活かされていないのは2割。どう活かすべきか模索されている様子も見られる。

⇒地域委員会の交流や女性委員会について積極的に情報提供する。



◇地域住民への周知に関すること

○地域委員の役割・機能を周知する取り組み

- ・“地域委員会だより”などの新しい媒体の発行という提案が複数あり。
- ・地域の催しや会合に参加し、委員が自発的に発信するべきという意見も目立つ。

⇒広報手段などについて検討する。

○地域委員会の議論の結果を周知する取り組み

- ・議論の過程だけでなく、その結果としてどうなったのかを訴えるべき。
- ・分科会の内容についても積極的に発信してほしいという要望あり。

⇒広報の方法などについて検討する。

○ふるさと創生基金事業などの進捗状況を周知する取り組み

- ・ふるさと創生基金事業自体の存在を周知し、多くの新企画の提案を得るべき。
- ・事業の結果として得られたものをPRする必要性も提案されている。

⇒市政だよりなどでの紹介を検討する。

○その他の取り組みについて

行事や会合などに参加し、地域の団体や住民と一緒に活動するという、各項目に共通する意見が多く見られた。

◇地域資源を活かしたまちづくりのアイデア

次世代を担うリーダーの育成、子どもたちへの地域資源の教育の必要性を訴える意見が目立つ。地域内の宝をもっと掘り下げるべきという声も多い。また、地域間連携についてはオール長岡での連携を目指して地域資源を結びつけるという、近隣の連携よりも全市的な連携を目指す意見も複数見られた。

⇒第5期の各地域委員会に情報提供する。